

渡良瀬遊水地エリア検討部会

前回会議の意見

平成28年9月20日

| No. | 第1回「検討部会」での意見 |
|-----|---|
| 1 | <p>「コウノトリやトキの生息環境」＝「渡良瀬遊水地の他の貴重な生物の生息環境」となるのか。<u>トキ・コウノトリに特化した環境整備を実施した時に、他の希少な種に何か影響等はないのか。</u></p> |
| | <p>渡良瀬遊水地は非常に貴重な箇所、<u>ほかの野鳥も非常に多いことや貴重な生物が生息していることを踏まえた検討にしてほしい。</u></p> |
| | <p>コウノトリやトキ以外にも指標種は考えられるのではないかと。比較的トキやコウノトリに近いところと言えばサンカノゴイがあげられる。遊水地では最近数が減っている。他にもクイナ類が繁殖・越冬しているので、そのような種も指標種になると思う。また、オオセッカも増えてきてはいるものの、まだまだ個体群としては少ないので指標種としても良いと思う。ほかにはやはりチュウヒが考えられる。渡良瀬遊水地にあれだけの環境があるのにまだ繁殖に至っていないことは不思議である。その意味でもしかすると湿地の管理が大変難しくなってくる感じもする。</p> |
| 2 | <p>コウノトリに限らないと思うが、生き物は何千年から何万年という時間をかけて、その環境に適応してきた。その中で独自の習性を獲得してきたと思う。<u>この取組みはコウノトリが長い時間をかけて築いてきた習性を理解した上で取り組んでいく必要があると思う。</u>それを無視すると、うまくいかないと思う。</p> |
| 3 | <p>実はコウノトリは1970年代以前には、日本にたくさんいた。このコウノトリは中国とロシアの国境付近のアムール川、ウスリー川周辺の大繁殖地から越冬のため、10月から11月に日本に渡ってきて、2、3月に繁殖地に戻っていた。現在は繁殖地から日本にほとんど渡ってきていない状況。なぜ渡って来ないのかというと、日本側の環境が変わったためと言われているが、本当は環境がどのように変わったかしっかりと特定されていない。<u>野生復帰を図る場合は、環境がどう変わったのか調べる必要があると思う。</u></p> |
| | <p>コウノトリは非常に“いい加減な鳥”で、良い場所を見つけると越冬地から繁殖地に戻らない鳥だと言われている。我々もそういうことを視野に入れて考えなければいけないと思う。特に日本だけでなく、<u>韓国、中国の繁殖地・越冬地の環境を調べ、それを踏まえて渡良瀬遊水地エリアの整備の検討を進めていくことも重要だ</u>と思う。</p> |

| No. | 第1回「検討部会」での意見 |
|-----|--|
| 4 | 渡良瀬遊水地の保全・再生、賢明な利用による地域活性化が求められている。その中で遊水地の価値を高める水辺環境は非常に重要であると思っている。そこでコウノトリやトキを評価の目標とするとのことだが、 <u>市民にもわかりやすい環境整備になるような形で検討部会を進めていただきたいと思います。</u> |
| 5 | <p>渡良瀬遊水地内で保全・再生していく上で、渡良瀬遊水地には治水という機能があることを考慮していただけたらと思う。例えば、樹木の伐採をするときに、治水の推進を目的とする団体と調整していかないといけない。この検討部会の中で、「環境保全をしていく上で木を残しておきたいが、治水上この部分は流れの邪魔になるために切らないといけない」ということが出てくると思う。そのあたりをうまく進めるためには<u>治水推進団体とも時おり連携を図っていかないと、また対立関係が生まれてしまう。</u>地方創生はこれから大事だと思っているので、<u>環境だけでなく、特に遊水地の中では治水なども考えながら進めてほしい。</u></p> <p>エリアの課題として「生息環境の保全・再生」があるが、その中に<u>治水の観点も入れるように検討をお願いします。</u></p> |
| 6 | 時として本来の機能である治水や、遊水地の環境のシンボルになっているヨシ原では、 <u>毎年ヨシ刈りやヨシ焼きを行っている。</u> そういった利用などについても <u>考慮していただきたい。</u> |
| 7 | 遊水地は首都圏のオアシスであり、年間100万人が利用している。広大な空間ではあるが、 <u>自然環境の保全と利用のバランスも考慮して検討をお願いしたい。</u> 特に地域にとって利用面は、 <u>地域の活性化の目玉の一つになっているので、ぜひお願いしたい。</u> |
| 8 | このような事業は面白く・楽しくないといけないと思う。 <u>例えば、「歴史、昔話、言い伝えからのアプローチ」というのがあり、非常に良いと思う。</u> |
| 9 | 渡良瀬遊水地はヨシ原でコウノトリの生息には適さないかもしれないが、 <u>今回はエリア単位での取組みということで、周辺の環境を探すとコウノトリの生息・繁殖に適した場所が見つかるのではないかと</u> 思っている。 |
| 10 | この検討部会の内容はかなり分野が広い。次回から資料を事前に送っていただき、 <u>資料を事前にもらえれば庁内で調整した意見を出せると思う。</u> |

<参考資料>

| No. | 第1回「推進協議会」での意見 |
|-----|--|
| 1 | 「規約」に「河川および周辺地域」とあるが、この表現では、渡良瀬遊水地が入ってこないのではないかと。 |
| 2 | 皆で仲良く連携して取り組むというのはわかるが、具体策を明確にする必要がある。野田市の黒酢農法のような <u>具体策がないと、目標もはっきりしないと思う。</u> PDCAができるようにしていただきたい。 |
| 3 | トキやコウノトリを自然再生の指標にするのは賛成だが、トキ・コウノトリそのものを増やすことを目標にしてしまうと、関係自治体間で温度差がある。 <u>トキ・コウノトリを指標とすることによって渡良瀬遊水地の自然の魅力を高めていくことを大きな目標とすることがよいと思う。</u> 渡良瀬遊水地の広大な自然環境を皆で盛り上げられると良いと思う。 |
| 4 | エリアとして全体的な視野を持つことが重要である。先行事例を含めた情報を共有することが非常に重要であり、 <u>情報をエリア全体の共有財産としなければ、各自治体の取組みがバラバラに進んでしまう。</u> 渡良瀬遊水地の自然環境が周辺自治体の誇れる環境として、 <u>どの自治体からも同じような情報を発信できるようにすることが、大きな意味での地域振興につながると思う。</u> |
| 5 | 関東エコネットと同じことをやっても面白くない。 <u>このエリアならではの地域的な特徴ある取組みを進めて行けると良いと思う。</u> |